

# 小中連携教育便り

令和3年度 枕崎市立別府小学校・枕崎市立別府中学校 令和3年8月発行

別府小・別府中学校では、小中学校の教職員が互いの教育課程や日常の学習指導、生徒指導等を相互に理解し合うことで、9年間の系統性・連続性のある教育を実現し、子どもの知・徳・体の調和のとれた育ちの一層の充実を図ることを目的として、小中連携教育の充実に取り組んでいます。今年度は、これまでの実践をもとに11月24日（水）に研究公開する予定です。そこで、今年度は、定期的に両校の小中連携教育に関する教育実践をお知らせします。

## 研究主題

自ら学び、考え、心身ともに健やかに育つ子どもの育成  
～ 地域や家庭との連携を中心に義務教育9年間を通して ～

### 【学び班の取組】

- 中学校教諭乗り入れ授業（6年算数科TT）
- 音読カードの活用（小中共通実践）
- 小中合同家庭学習強調週間の設定（家庭との連携）
- 視写への取組（小中共通実践）



中学校教諭TT

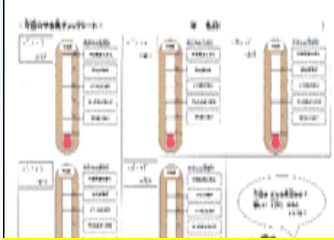


音読カード

### 【心班の取組】

- いじめ・不登校等の情報共有・行動連携（合同研修会）
- ハートフルツリーの取組（小中共通実践）
- 今日のやる気チェックシート（小中共通実践）

### ハートフルツリー



やる気チェックシート

### 【体班の取組】

- 基本的な生活習慣調査の実施（小中共通実践）
- 自力通学「校区1kmマップ」の活用（家庭との連携）
- ランニングタイムの取組（小中共通実践）



ランニングタイム

### 校区1kmマップ



### 【学び・心・体班の取組】

- 地域人材を活用した授業実践（社会・総合・家庭）
- 地域人材リストの作成



3年社会科



駒水ヤンセ踊り

## 研究の柱1 学びに向かう意欲を高めるための地域・家庭との連携

### 「地域とのつなぎ」を視点にした授業実践

令和3年6月14日（月）、3年生が社会科の研究授業を行いました。本校では、家庭・地域との連携が研究の一つの柱になっています。今年度から、一人一台のタブレットが配置され、個に応じたさまざまな学習ができる環境が整ったことから、今回の学習では、茶農家で3年生の保護者でもある真茅知寛さんの茶工場とオンラインでつなぎ、実際の機械操作の様子を確認しながら、子どもたちは美味しいお茶を作る工夫を学ぶ学習を展開しました。

### 成果及び課題

- 現地に行かなくても、教室にいながらリモート授業ができるということが証明された授業だった。
- 校区が広いので、見学がなかなか難しいが、それを解決するよい手立てが取り入れられていた。
- 生産者の生の声を聞くことで、児童の学習意欲につながり、迫力がある授業が展開できていた。
- リアルタイムで、農家の方と双方向で対話ができるので、その時に疑問に感じたことを質問する場面があってもよかった。



生産者の説明（オンライン）



グループでの話し合い

## 研究の柱2 小学校と中学校の接続を意識した共通実践

### 「小学校と中学校の共通実践事項」を視点にした授業実践

令和3年7月12日（月）、2年生が数学科の研究授業を行いました。本校では、小学校と中学校の接続を意識した共通実践が研究の一つの柱になっています。小中の共通実践事項として、授業における「学習のしつけ」「学習の流れ」「学習課題の提示」「発問の仕方」の4つがあります。今回の学習では、これまでの学習を発展させ、連立2元1次方程式ではなく、連立3元1次方程式にチャレンジしました。「見方・考え方」を深める授業になるので、既習事項をしっかりと理解しておかないと解けません。子どもたちは試行錯誤しながらも、主体的・協働的な学習で答えを導き出していました。

### 成果及び課題

- 発問に対する生徒の反応がよい。
- 話を聴く姿勢・態度・返事、問題文に下線をひく、机を移動するときの注意点等がよく指導されている。
- ICTを活用し、ロイロノートを使用することで、主体的・協働的に学習を行い、「見方・考え方」を深められる授業展開となっていた。
- 自力解決でつまづいているときの対応について、もう少し工夫してもよかった。



グループでの話し合い



小中合同授業研究